



子育て伴走「そげだがあ」通信 No. 8 ～みんな大切 笑顔あふれる家庭と保育園に～



R5.3.6 やすぎ保育園園長 福島朗博

◆園風景から ～やすぎこども園に向けてGO！職員ワークショップ～

新年あけて認定こども園への移行の準備が本格的になり、バタバタするうち暦は3月に、すっかり春めいてきました。子どもたちも待っていたかのように園庭に出て嬉しそうです。

さて、12月より土曜午後を使って、職員で3回ワークショップを行いました。うちの園の「いいところ」と「課題」を出し合って、こども園でどんなことを取り組みたいか話し合いました。それをもとに次は、園の特色 PR 作成グループ、地域とつながるための子どもにわかる地域マップづくりグループ、こども園キャラクターマスコットづくりグループに分かれて作業を行いました。4月のスタートには、職員全員で取り組んだアイデア満載のわくわく成果物が皆様に届けられそうです。どうぞお楽しみに！



◆メディアとのつきあい方を見直してみませんか

人の脳の大半は、3歳頃までの間に急速に発達して大人の脳と同じくらいに成長するといわれています。つまり乳幼児期の脳はとても可塑（かそ）性に富んでいて、与えられたりかかわったりする刺激や内容に応じて脳の感覚や運動、言語などの領域といった中身が形成されていきます。とくに、考える力となる言語能力は、身近な大人との応答的なかわり、親子のコミュニケーションによって培われていきます。まなざしが合って、声を出したら応えてくれる、応答的なコミュニケーションによって、世界がワタシを中心に回っているぞという有能感や自己肯定感が愛着関係となり、今度は大好きな大人と同じモノを見たい、共有したい思いがことばに繋がって言語能力が育まれていくのです。（詳しくは裏面に）



この大切な時期に、楽しそうにしているから、やんちゃの時におとなしくなるから、ゲームが上手になっていくから、と子どもにスマホをもたせて使わせていませんか。幼児がスマホにかかわる様子を見ていると、これまでのメディアの主体であったテレビやDVDと違って、いつでもどこでも親の手元から、また子ども自身もたやすく操作できるのでいっそう映像やゲームにのめりこみそうな中毒性の怖さを感じます。すでに現在において、大人や中高生でもそれが手元にないと落ち着かないといったスマホ依存症が社会問題となっています。そうしたメディアの一方的に流れてくる映像とのつきあい方についてまだ自己判断や自己制限が難しい幼児には、とりわけ周りの大人が注意してかかわってほしいと切に思います。日本小児科医会は2004年に、当時のテレビ・ビデオについて5つの提言を発表して警笛を鳴らしました。

日本小児科医会による「5つの提言」メディアを見る際の注意事項（*スマホも同様）

- ① 2歳までは、テレビ・DVDなどの視聴を控えましょう。
- ② 授乳中、食事時のテレビ・DVDなどの視聴はやめましょう。
- ③ すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。1日2時間までを目安にしましょう。テレビゲームは1日30分まで。
- ④ 子ども部屋にはテレビ、DVDプレイヤー、パソコンを置かないようにしましょう。
- ⑤ 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

まとめとして、①バランスもったつきあい方で ②一人で長時間見せない ③大人が入って一緒に活用して遊ぶ ④親がダラダラ見ない 絵本の読み聞かせや運動遊びなど面白い遊びがあるよ！と誘って親子で楽しむ時間をつくる といったことを意識して上手にメディアとかわかってほしいと思います。*参考「スマホに子守りをさせないで！」日本小児科医会パンフ

ビル最上階はアウトプットの「言えることば」です。ここまでいくためには…

相手に伝えたいことを頭の中で考えて、また相手の状況や気持ちに合わせて、ことばにして言い表せるようになるといいですね。

そのためには、赤ちゃん時代の1階からの積み上げが大事です。下からながめながらごらんください。

これが人とかかわる力、生きる力になっていきます

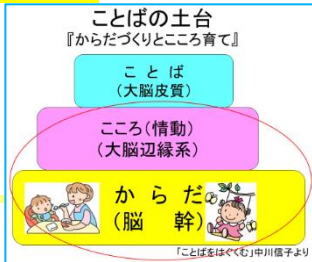
ことば



メディアの強い刺激に気を付けて! (表面参考)

五感 みる・きく・ふれる・味覚・嗅覚を伸ばすのは**豊かな体験**

1階から3階までは赤ちゃん時代の大事な課題!
からだ**と**こころは**セット!**
楽しく心地よくふれあいながら、**安定した親子関係と共感関係を築きましょう。**



「言えることば」よりも「話の理解」が大事です。遊びが活発になる4階からは、**豊かな生活体験**と大好きな大人との**共有体験**の中で、子どもに寄り添いながら気持ちを受け止め、子どもに**わかることば**で応えてあげること**でわかり合える**ようになります。そうやって最上階の**言えることば**になっていきます。一つ一つの階を大切に積み上げながら、ともに育んでいきましょう。

生活の共有体験がイメージや言葉の土台

言語表出

言える言葉 「りんご」

言語理解

わかる言葉
共有体験

言語に関する生活体験

わかることがら

「言葉が言える」ことよりも「話が理解できる」ことが大事

「りんごたべる?」と聞くと「りんごもってきて」と言うと、ぶどうでなくりんごもってくる

りんごの皮をむく
りんごを切る

りんごを食べる 中身は白
甘酸っぱい味 鮮やかな赤
「おいしいね~」

「もったべたい?」

参考「ことばを育む」中川信子著

園長の

ことば・子育て相談会 令和5年度初回は5月13日(土)を予定しています
ご希望の方は平日でも受けつけます

園長だよりバックナンバーはこちらです⇒

